

【作 品】

年表「現代ファッションの100年」の構成と内容

The Graphic Table of History, "100 Years of Modern Fashion"

塚田 耕一 TSUKADA, Koichi
鈴木 桜子 SUZUKI, Sakurako

I

本年表は、過去に発表したグラフィック年表「現代欧米デザインの100年」(光村図書出版、1996)、「日本デザインの100年」(光村図書出版、1997)とともに年表三部作を成すものである。

過去に起こった出来事を、時系列的に編年体として列挙しても、ほんとうの意味での年表には成り得ない。そこでは、ある事象とある事象との間の〈関係性〉が捨象されてしまうからである。また、時間的なズレや、空間的(地域的)な隔たりをもって現れた同時代的現象の同質性を理解することができないからである。時間の推移とともにリニア(直線的)に歴史を刻み得るのは、科学技術の分野だけである。そこでは進歩が最大の命題であり、逆行、遡行、回帰などの現象は起こりようがない。

本年表は、厳密には「現代ファッション・デザインの100年」と称すべきものである。しかし、ただ単にファッション史とデザイン史を同一紙面上に並列したものではない。ファッション史を理解するためには、デザイン史の理解が不可欠であるとの前提から両者の〈関係性〉が一目で分かるように作成されている。

一般的に、どのような書物であろうと、歴史の〈通時性〉〈共時性〉に加えて〈関係性〉を、同時に読者に伝えることはできない。

年表は、とくにグラフィック年表は、この錯綜する事象を総合的に図示することが可能である。読者は全体像を把握しながら細部を確認することができる。

本年表は、「年表」のもつこの特質を最大限活用して作成されている。読者は本年表をデザイン史年表として活用することもできるし、また、ファッション史年表として活用することもできる。しかし、更に一歩すすめて、この100年のデザインとファッションの動向を、

同時代的現象としてファッション・デザイン史年表として活用できるよう配慮されている。

II

10年ほど前まで、デザイン史とファッション史は、別個のものとして扱われてきた。これを産業流通システムの違いに帰す向きもあるようであるが、いわゆるデザイン分野における個々の生産流通の違いもそれぞれに異なったものであり、ファッション部門だけを切り離して扱う理由にはなり得ない。

デザイン史がファッション史を包括してこなかった(あるいは包括できなかった)理由の一つに、両者の史的アプローチの違いがあると思われる。

すなわち、デザイン史がデザイン運動史として、時代精神にかかわる倫理の体系として語られてきたのに対し、ファッション史は、フェミニズムを根底に持ちながら「解放」の歴史として論じられてきたという経緯がある。

前者が、「合理性」「合目的性」「機能性」といった言葉に置き換えられる倫理性あるいは禁欲性というものを根底に、モダニズムを表象してきたのに対し、後者はコルセットからの解放にはじまり、女性の自立や社会進出の問題を絡めながら、ニュールックやミニスカートやユニセックスへと転じていく。そこに通底するものはフェミニズム中心の考え方であると言って良いであろう。

ところが、ポストモダニズムをめぐる論争の前後から、デザイン史・ファッション史両者ともに従来の一元的な歴史観を超えた多元論的な視点からの歴史の見直しが始まった。

デザイン史の分野に即して言えば「モダニズムを超

えて」とか「近代の超克」という言葉に見られるように、哲学や社会科学の分野と連動して、徹底したモダニズム検証が行われた。この動きの中で、従来の史観から捨象されていたデザイン運動に光が当てられることとなり、新しい資料が発掘された。それらの多くは、ファッションの試みを内包しており、デザイン史を語る時、ファッションの問題を避けては通れなくなったのである。具体的には、革命期ソ連におけるロシア構成主義におけるコスチュームの問題、20世紀初頭のウィーン工房における服飾部門の役割（ちなみにポール・ポワレはウィーン工房を訪ね、そのシステムを学んでいる）、また、ドイツ工作連盟（D. W. B.）におけるコスチュームをめぐる論争、パウハウスにおける舞台衣裳の試み、更に遡ればイギリスの改良服運動や、唯美主義と服飾を結びつけたゴドウィンの存在等、枚挙に暇がない。地域的には、戦後のアメリカの動向や、北欧のヴォッコ、マリメッコといったデザイナー集団の台頭など、デザイン史はファッション史を包含するものとなってきたのである。

これに対し、ファッション史の側にも大きな変化が見られる。従来ファッションの歴史は、パリ・モードの歴史として語られてきた。その限りにおいてはファッション史は1本の数直線上で語ることが可能であった。ただこの方法は、ファッション史を他の造形分野から独立した閉鎖系の中に閉じ込めてしまう危険性を持っていた。事実そうだった。

これに対し15年程前からファッション史の見直しの気運が高まってきた。その先鞭をつけたのが、T. Lewenhaupt 著の『Crosscurrents, Art, Fashion, Design, 1890-1989』である。いみじくもcrosscurrents（交差する流れ）と題された同書は、アートとファッションとデザインが交差しながら、また、逆流しながら相互に影響しあって一つの流れを形成していることを指摘する画期的な書物であった。

ほぼ同時期にメトロポリタン美術館衣装部門から R. Martin 著『Fashion and Surrealism』（1987）が刊行され、ファッションと現代美術やデザインとの関係が考察された。R. Martin はその後『Infra Apparel』（1998）でファッションの構造的把握を論じ、次いで『Cubism and Fashion』（1998）で、造形の視覚革命とファッションの関係に光を当てた。これらはすべてファッションと他の造形ジャンルとの〈関係性〉を主題としたもので、従来のスタイリングやシルエットの変遷をもって語られてきたファッション史の通説を覆すものだった。

メトロポリタン美術館衣装部門のファッション史見

直しの試みは1973年の「The 10's the 20's, the 30's: Inventive Clothes, 1909-1939」展に遡ることができる。日本で「現代衣服の源流」展として紹介された同展は、ファッションにおけるモダニズムの確立を明確にしたものとして記憶されるべきである。

こうして、従来のデザイン史の枠組みが拡大するにつれ、また、ファッション史の枠組みが広がりをもつにつれ、両者はオーバーラップすることとなった。

日本デザイン学会でも2年程前、ようやくファッション史部会を立ちあげた。遅きに失した感はあるが、わが国においてもようやく本格的なファッション史とデザイン史の統合が研究課題として浮上してきている。

また、常見美紀子著『ファッション・デザイン史』（2000）（注：『ファッションデザイン史』ではない）の刊行は、この分野における先駆的な試みとして特筆してよい。

III

本年表は、杉野学園衣裳博物館のホームページ制作を機に作成されたものである。教育機関の附属施設のホームページにどのような教育的内容を盛り込むかが、わたしたちの課題であった。ホームページ上では、各図版はウィンドウとして開けることができ、更に詳しい解説を読むことができる。

教室で年表の見方を学び、ホームページのウィンドウを開けて更に詳しい内容を知り、博物館で実作にあたる。大学での講義と博物館での実習を連携させる媒体として機能するようにも作られている。

年表を含む博物館ホームページは、フランス語版も制作し、ヨーロッパに独自のキー局を設けて全欧州に鮮明な画像を発信している。アントワープ王立芸術アカデミーや英国キングストン大学大学院でも、この年表が活用されているとのことである。日本のファッション系の大学においても、プリントアウトして利用されている。（<http://www.costumemuseum.jp>）

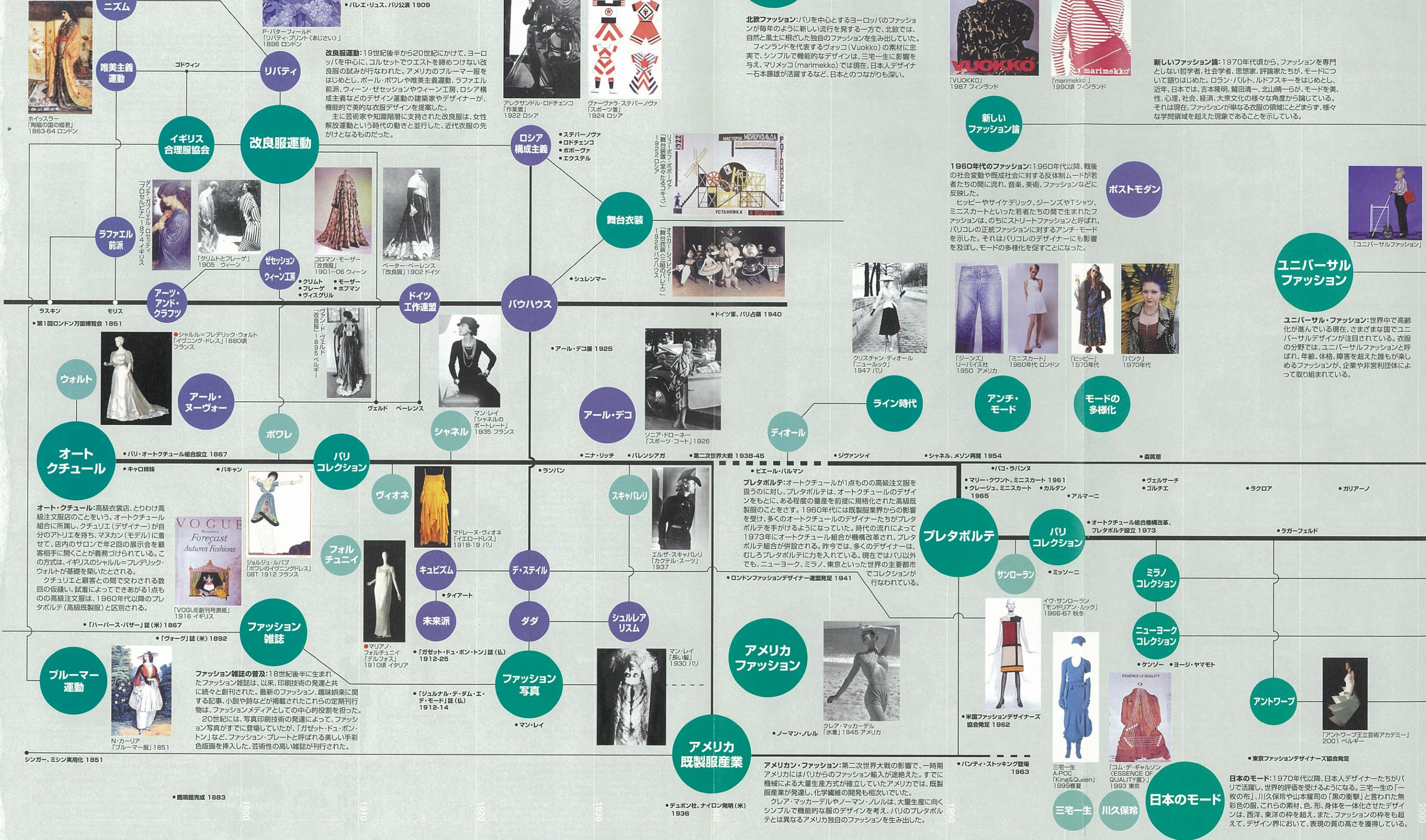
本年表が新しいファッション史理解の一助となれば幸いである。

さいごに、本年表を含む博物館ホームページのフランス語版制作にあたり、フランス語訳を担当していただいたフィリップ・ベルテ（Philippe Berthet）氏に心より感謝申し上げたい。ベルテ氏は、日本語のニュアンスをよく理解し、それを適切なフランス語に翻訳してくださった。氏のエスプリは、私たちの要望をはるかに越えるものであった。

現代ファッションの100年



●印の図版は
杉野学園衣装博物館の
所蔵品です。



ブルーマー
運動

N.カーリア
「ブルーマー」 1851

ファッション
雑誌

ファッション雑誌の普及：18世紀後半に生まれたファッション雑誌は、以来、印刷技術の発達と共に続々と創刊された。最新のファッション、趣味娯楽に関する記事、小説や詩などが掲載されたこれらの定期刊行物は、ファッションメディアとしての中心的役割を担った。20世紀には、写真印刷技術の発達によって、ファッション写真がすでに登場していたが、「ガゼット・ド・ボントン」など、ファッション・プレートと呼ばれる美しい手彩色版画を挿入した、芸術性の高い雑誌が刊行された。

ファッション
写真

マン・レイ

アメリカ
ファッション

クレア・マッカーデル
「水着」 1945 アメリカ

プレタポルテ

プレタポルテ：オートクチュールが1点もの高級注文服を扱うのに対し、プレタポルテは、オートクチュールのデザインをもとに、ある程度の量を前提に規格化された高級既製服の生産を。1960年代には既製服業界からの影響を受け、多くのオートクチュールのデザイナーたちがプレタポルテを手がけるようになっていた。時代の流れによって1973年にオートクチュール組合が機構改革され、プレタポルテ組合が併設される。昨今では、多くのデザイナーは、むしろプレタポルテに力を入れている。現在ではパリ以外でも、ニューヨーク、ミラノ、東京といった世界の主要都市でコレクションが行なわれている。

アメリカ
既製服産業

アメリカン・ファッション：第二次世界大戦の影響で、一時期アメリカにはパリからのファッション輸入が途絶えた。すでに機械による大量生産方式が確立していたアメリカでは、既製服産業が発達し、化学繊維の開発も相次いでいた。クレア・マッカーデルやノーマン・ノレルは、大量生産に向くシンプルで機能的な服のデザインを考え、パリのプレタポルテとは異なるアメリカ独自のファッションを生み出した。

日本のモード

日本のモード：1970年代以降、日本人デザイナーたちがパリで活躍し、世界的評価を受けるようになる。三宅一生の「一枚の布」、川久保玲や山本耀司の「黒の衝撃」と言われた無彩色の服、これらの素材、色、形、身体を一体化させたデザインは、西洋、東洋の枠を超え、また、ファッションの枠を超えて、デザイン界において、表現の質の高さを獲得している。

ユニバーサル
ファッション

ユニバーサル・ファッション：世界中で高齢化が進んでいる現在、さまざまな国でユニバーサルデザインが注目されている。衣服の分野では、ユニバーサルファッションと呼ばれる、年齢、体格、障害を超えた誰もが楽しめるファッションが、企業や非営利団体によって取り組まれている。

ポストモダン

1960年代のファッション：1960年代以降、戦後の社会変動や既成社会に対する反体制ムードが若者たちの間に流れ、音楽、美術、ファッションなどに反映した。ヒッピーやサイケデリック、ジーンズやTシャツ、ミニスカートといった若者たちの間で生まれたファッションは、のちにストリートファッションと呼ばれ、パリコレの正統ファッションに対するアンチ・モードを示した。それはパリのデザイナーにも影響を及ぼし、モードの多様化を促すことになった。

北欧
ファッション

北欧ファッション：パリを中心とするヨーロッパのファッションが毎年のように新しい流行を発する一方で、北欧では、自然と国土に根ざした独自のファッションを生み出した。フィンランドを代表するヴォッコ（Vuokko）の素材に忠実で、シンプルで機能的なデザイナーは、三宅一生に影響を与え、マリメッコ（marimekko）では現在、日本人デザイナー石本藤雄が活躍するなど、日本とのつながりも深い。

改良服
運動

改良服運動：19世紀後半から20世紀にかけて、ヨーロッパを中心に、コルセットでウエストを締めつけない改良服の試みが行なわれた。アメリカのブルーマー服をはじめとし、ポール・ボワレや唯美主義運動、ラファエル前派、ウィーン・ゼセッションやウィーン工房、ロシア構成主義などのデザイン運動の建築家やデザイナーが、機能的で美的な衣服デザインを提案した。主に芸術家や知識階層に支持された改良服は、女性解放運動という時代の動きと並行した、近代衣服の先駆けとなるものだった。

オート
クチュール

オート・クチュール：高級衣装店、とりわけ高級注文服店のことをいう。オートクチュール組合に所属し、クチュリエ（デザイナー）が自分のアトリエを持ち、マヌカン（モデル）に着せて、店内のサロンで年2回の展示会を開催して、店内のサロンで年2回の展示会を開催して、顧客相手に開くことが義務づけられている。この方式は、イギリスのシャルル・フレデリック・ウォルトが基礎を築いたとされる。クチュリエと顧客との間で交わされる数回の仮縫い、試着によってできあがる1点もの高級注文服は、1960年代以降のプレタポルテ（高級既製服）と区別される。

パリ
コレクション

サンローラン
ミッソーニ

パリ
コレクション

ヴィオネ
キュービズム

ジャポニスム

ジャポニスム

イギリス
合理服協会

イギリス合理服協会

ラファエル
前派

ラファエル前派

ドイツ
工作連盟

ドイツ工作連盟

100 ans de mode contemporaine

1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000

● Modèles conservés au Musée du Costume Sugino



Whistler "The Princess from the Land of Porcelain" (La Princesse du Pays des Porcelaines) 1863-64 Londres

Japonisme
Mouvement esthétique

Godwin
The Rational Dress Society

Dante Gabriel Rossetti "Proserpine" 1874 Angleterre

Arts & Crafts



Charles Frederic Worth "Robe du soir" Fin des années 1880 France

Art nouveau

Mouvement du costume de la Réforme



P. Butterfield Imprimés Liberty: "Hortensia" 1892 Londres

Liberty



Klimt et Flöge 1905 Vienne



Vêtement de la Réforme par Koloman Moser 1901-06 Vienne

Sécession - Wiener Werkstätte



Habit de la Réforme par Van de Velde 1895 Belgique

Deutsche Werkbund



Portrait de Chanel par Man Ray 1935 France

Bauhaus

Constructivisme russes



Tenue de travail d'Alexandre Rodtchenko 1922 Russie



Varvara Stepanova Vêtement de sport 1924 Russie

Stepanova
Rodocthenko
Popova
Exter



Lioubov Popova Décors du "Cocu magnifique" 1922 Russie



Oskar Schlemmer Costume de théâtre "Ballet triadique" 1926 Bauhaus



Exposition des Arts Déco 1925

Costume de théâtre

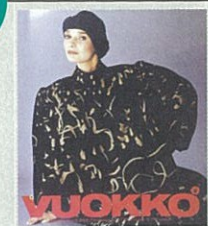
Art Déco

Mode scandinave

Marimekko

Vuokko

Mode scandinave : D'un côté il y a la mode européenne qui a pour centre Paris et lance une nouvelle vogue tous les ans. De l'autre, au nord de l'Europe, est née une mode qui se fonde sur le climat et la nature. Le lien entre la mode scandinave et le Japon est profond : Les dessins fonctionnels, simples et respectueux des tissus de Vuokko, représentative de la Finlande, ont influencé Issey Miyake. Actuellement le designer japonais Fujio Ishimoto développe ses activités chez Marimekko.



Vuokko 1987 Finlande



"Marimekko" Environ 1990 Finlande

Nouveaux essais sur la mode

Mode des années 60 : A partir des années 60, suite aux mouvements sociaux d'après guerre, une vogue d'opposition au régime établi ou à la société existante se répand parmi les jeunes et se reflète dans la musique, dans les arts, dans la mode, etc. Les modes nées parmi les jeunes : la mode hippie et la mode psychédélique, celle des jeans, des T-shirts, de la minijupe, et plus tard ce qu'on appellera la "mode de la rue", relèvent d'une mode "anti" qui va contre celle, établie, de Paris collection. Elle exerce aussi une influence sur les dessinateurs de Paris collection et incite à une diversification.



"Le jean" de la société Levis 1950 Amérique



Minijupe Années 1960 Londres



Hippie Les années 1970



Punk Années 1970

La mode anti

Diversification de la mode

Nouveaux essais sur la mode : A partir des années 1970, les critiques, penseurs, philosophes, spécialistes de sciences sociales, bien que nullement spécialistes de mode, commencent à écrire sur elle. Après Roland Barthes et Rudofsky, ces dernières années au Japon, Takaaki Yoshimoto, Kiyokazu Washida, Seiichi Kitayama, etc. dissertent sur la mode sous divers angles comme ceux de la culture de masse, de l'économie, de la société, de la psychologie, du sexe, de la beauté. Maintenant, sortant du simple domaine des habits, la mode montre que le phénomène s'étend aux domaines scientifiques.



Mode universelle 2000

Mode universelle

La mode universelle : Actuellement, dans le monde entier, les populations vieillissent et divers pays se tournent vers le design universel. Dans le domaine des vêtements, ce qu'on appelle la mode universelle est une mode faite pour le plaisir de tous, au-delà des handicaps, de l'âge et de la constitution physique. Elle est développée par des entreprises, et des groupements à buts non lucratifs.

Worth

Haute couture

Haute couture : C'est à dire boutiques de costumes de luxe et surtout boutiques de vêtement sur mesure de luxe. Les couturiers qui appartiennent au syndicat de la haute couture, ont leur propre atelier, habillent des mannequins et ont le devoir de présenter à leurs clients une exposition deux fois par an dans leur salon intérieur. La base de cette formule a été établie par Charles Frédéric Worth en Angleterre.



Couverture de "Vogue" Numéro de septembre 1916 Angleterre

Magazines de mode

Mouvement Bloomer



N. Currier "Costume bloomer" 1851

Diffusion des magazines de mode : Les magazines de mode sont apparus dans la deuxième moitié du 18ème siècle. Parallèlement au développement des techniques d'impression des magazines apparaissent les uns après les autres. Au 20ème siècle, avec le développement des techniques d'impression photographiques, la photo de mode fit son apparition. Cependant les magazines de haute qualité artistique insèrent des belles estampes colorées à la main appelées "planches de mode".

Paris collection



"Robe jaune" de Madeleine Vionnet 1918-19 Paris



Mariano Fortuny "Delphos" Vers 1910 Italie

Cubisme

Futurisme

De Stijl

Dada

Photo de mode

Schiaparelli



Costume de cocktail d'Elsa Schiaparelli 1937

Surréalisme

Prêt-à-porter américain



Maillott de bain de Claire MacCardell 1945 Amérique

Mode américaine

La mode américaine : Sous l'effet de la deuxième guerre mondiale, l'importation en Amérique de la mode de Paris s'arrête pendant un temps. Déjà, là-bas, les méthodes de fabrication industrielles mécanisées en grande série s'étaient établies. La fabrication industrielle du prêt-à-porter avait commencé et le développement des fibres synthétiques était en cours. Claire MacCardell et Norman Norell, pensaient à des dessins de vêtements simples et fonctionnels pour une production en grande série. Elles ont créé une mode américaine indépendante, différente du prêt-à-porter de Paris.



Maillott de bain de Claire MacCardell 1945 Amérique

Prêt-à-porter

Le prêt-à-porter : En opposition à la haute couture qui traite des vêtements de luxe sur mesure à l'unité, vient le prêt-à-porter, qui a pour origine des dessins de la haute couture. Le prêt-à-porter standardise le vêtement et préfigure la fabrication en plus ou moins grande série. Dans les années 60, influencé par le monde du prêt-à-porter, beaucoup des dessinateurs de haute couture commencent à y travailler. En 1973, l'époque évoluant, le syndicat de haute couture s'est réorganisé et a créé, de manière indépendante, le syndicat de prêt-à-porter.

Paris collection

Saint-Laurent

Paris collection

Milan collection

New-York collection

Anvers



Yves Saint Laurent "Look Mondrian" Automne hivers 1966-67

Kenzo

Yohji Yamamoto

Mode japonaise

La mode japonaise : Après les années 1970, les dessinateurs de mode japonais développent leurs activités en Paris et sont appréciés dans le monde entier. Le "Tissu d'une pièce" de Issey Miyake, les vêtements sans couleur appelés "le choc du noir" de Yohji Yamamoto et Rei Kawakubo, leurs designs qui unifient le corps, la forme, la couleur et le tissu, passent au-dessus des frontières de l'occident et de l'orient. De plus, ils franchissent aussi le cadre de la mode. Dans le monde du design, la mode japonaise atteint un haut niveau de qualité d'expression.

Académie Royale des Beaux-Arts d'Anvers 2001 Belgique

● Etablissement du Council of Fashion Designer's Tokyo

● Composition et textes japonais : Koichi Tsukada (Professeur à l'Université du Costume Sugino), Sakurako Suzuki
● Direction artistique : Harmonice Design S.A.R.L. Masataka Matsumori, Aiko Ishikawa